



第71回日本皮膚科学会中部支部学術大会  
モーニングセミナー1

M S 1

# 実践！皮膚真菌症の 診断と治療

座長

望月 隆 先生 金沢医科大学皮膚科学講座 教授  
市來 善郎 先生 いちき皮膚科 院長

## 病型から考える爪白癬治療

福山 國太郎 先生 関西ろうさい病院 皮膚科部長

## 明日からの診療に役立つ、 簡易な真菌検査法とそのコツ

坂 義経 先生 きらり皮膚科クリニック 院長

2020年  
10月11日(日) 8:00-9:00

WEB開催・オンデマンド配信

学会期間10月10日～11日の間ご視聴が可能です。  
お好きなタイミングでご視聴の程お願い申し上げます。

共催：第71回日本皮膚科学会中部支部学術大会  
サンファーマ株式会社

### 病型から考える爪白癬治療

福山 國太郎 先生 関西ろうさい病院 皮膚科部長

爪白癬は、遠位側縁爪甲下真菌症(DLSO)、表在性白色爪真菌症(SWO)、近位爪甲下爪真菌症(PSO)、endonyx onychomycosis(EO)、全異栄養性爪真菌症(TDO)に分類される。亜型としてデルマトファイトーマとその類縁病型、爪甲剥離などがある。日本皮膚科学会皮膚真菌症診療ガイドライン2019では外用療法は肝機能障害等で内服できない、あるいは内服薬を希望しない中等症以下の爪白癬患者に有用であるとしている。また従来からSWOについては感染病巣の搔爬と外用療法が有効とされており、デルマトファイトーマ等についても同様に病巣の外科的除去と外用療法の奏効報告が多くある。本邦では近年爪白癬に対する治療薬が増え、外用療法はルリコナゾール爪外用液、エフィナコナゾール爪外用液、内服療法はテルビナフィン、イトラコナゾール、ホスラブコナゾールが使用できる。爪白癬治療は使用薬の特徴と爪白癬の病型を理解して使用することが重要である。また爪白癬は単独で生じることが稀で、足白癬から波及して生じることがほとんどである。爪白癬の治療にあたっては足白癬にも留意が必要である。

### 明日からの診療に役立つ、簡易な真菌検査法とそのコツ

坂 義経 先生 きらり皮フ科クリニック 院長

皮膚真菌症は皮膚科外来患者の約1～2割を占める重要な皮膚疾患のひとつであるが、近年、KOH直接鏡検ならびに真菌培養を行わない医療施設もみうけられる。しかし、KOH直接鏡検あるいは真菌培養で真菌要素を確認し、正確な診断をつけることが他科ではまねの出来ない、皮膚科医としての腕の見せどころである。そこで、もう一度基本に立ち返り、皮膚科医にとって必須の手技である真菌検査法について、当院で実践している、セロハン粘着テープを用いた簡易な真菌検査法などを中心に実例を提示して紹介する。セロハン粘着テープを使った真菌検査法は、生毛部白癬、特に顔面や小児の白癬などで患者に苦痛を与えず、多くの鱗屑を採取できるため、とてもメリットがある。また、爪白癬では、真菌検査が重要であることはいままでもないが、さらに検体採取部位が診断の精度を左右するため、各病型と菌の寄生部位との関係についても理解しておく必要がある。今回紹介する真菌検査法が、先生方の日常の真菌症診療の一助けとなれば幸いである。